

いきいきホスピタルにゅーす

2018.7

身近な材料がアートの作品に



外来棟廊下の作品が新しい展示になりました。
今回の企画展示は、筑波大学芸術学群の構成領域の授業で制作された作品です。“構成領域”という名前は聞きなれないかと思いますが、形や色などの基礎的な造形表現を専門的に学ぶ分野で、筑波大学ならではのコースです。
小石やダンボール、レジ袋、毛糸、スパンコール・・・など私たちにとって身近な材料を組み合わせ、配置することでアートの作品に仕上がっています。これは何の素材を使っているのか？と想像しながら、ぜひ鑑賞してみてください。

企画展「2017・2018 年度 平面構成展」

会場：外来棟 1 階、2 階廊下

会期：6 月 28 日（木）～ 9 月上旬

アスパラガスのこれまでとこれから



附属病院内でアート活動を行う学生チーム「アスパラガス」が 2017 年度に行った活動を冊子にまとめました。その昨年度の活動の一つで、現在も 6 東病棟で継続している活動『どんつきまど』は、扉に描かれた窓にいろんな形のマグネットを組み合わせ、思い思いの風景をつくります。6 月上旬には濃い色のマグネットパーツを新調し、夏仕様の新たな風景が飛び出しました。これまでの活動を引き継ぎつつ、アスパラガスの新たな活動にもご期待ください。

pick up!!

7 月 16 日（月・祝）に、パシフィコ横浜にて開催される「第 2 回日本呼吸・心血管・糖尿病理学療法学会 学術集会」内で、NPO 法人チア・アートがパネル出展します。
筑波大学芸術系の教員・学生が附属病院とメディカルセンター病院で行ってきた病院アートの取り組みについて紹介します。

